

## 令和3年度 自己評価報告

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

## 『教務部 自己評価』

(教務部) 教育目標	・社会自立・職業自立に必要な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。	
評価する領域・分野	教育方針・家庭との連携・授業・教育活動の広報・職業教育・消費者教育	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標や指導方針に共感できる及び分かりやすく伝えているとの評価は80%～90%であったので、本校の方針が大部分の方に理解していただけていると考える。</li> <li>・懇談が十分に実施されているとの評価は90%であったので、短縮授業とし、懇談時間の確保をしたことで評価を得たと考える。</li> <li>・授業内容や進度は生徒の実態に即しているとの評価は80%であったので、本校の授業展開について理解を概ねいただけていると考える。</li> <li>・ホームページや、すぐメールの活用によって、情報提供については分かりやすいとの評価が90%近くに改善した</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた、創意ある教育課程を実行し、評価・改善を行う。</li> <li>・生徒の進路希望や学習状況を踏まえ、具体的な指導内容を検討し、きめ細かな指導を充実する。</li> <li>・学習活動の中で働く人、働き続ける人になれるようにキャリア教育・消費者教育等を計画し実践する。</li> <li>・基礎的・基本的な学習内容の定着を図ると共に、社会生活で活用できる実践力の伸長を図る。</li> <li>・専門性の高い職業教育を推進するため、企業や関係機関との連携に基づく学習活動を計画する。</li> <li>・授業におけるICT活用を推進するとともに情報教育の充実、教員のICT活用指導力の向上を図る。</li> <li>・コミュニティ・スクール制度を活用し、地域に貢献できる力を育成する学習活動を進める。</li> </ul>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別懇談時間の確保 ・キャリア・パスポートの活用 ・教科会の実施（一般教科・専門コース）</li> <li>・外部講師を招聘しての消費者教育の実践 ・一人一台タブレットの整備、活用</li> </ul>	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア・パスポートの整備と実践</li> <li>・学校教育目標の実現のために、生徒にとって何が必要かを共通理解するための教科会の実施</li> <li>・卒業後の生活に向け、社会生活上のトラブル等を回避するための消費者教育の実践</li> <li>・タブレット配備と授業の中での活用推進</li> </ul>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談結果や実習後の自己評価及び実習先評価</li> <li>・生徒及び保護者・学校運営協議会委員を対象としたアンケートによる回答</li> </ul>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程、年間計画、行事等の計画、実施・教科書、補助教材の検討・教科会の実施・学校要覧、学校紹介の作成・個別の指導計画の作成・情報教育、視聴覚教材管理</li> </ul>	
評価の視点	評価	
①本校の教育目標に基づいた教育活動を計画・実施できたか	○ A B C D	
②本校の特色に対応した教科会を実施できたか	○ A B C D	
③外部講師を招聘して消費者教育を実践できたか	○ A B C D	
成果・課題	総合評価	
○三者懇談や進路懇談において保護者との連携を深めるため、懇談日数、時間を増やしての実践は有効であった。	○ A B C D	
○教科会を毎月実施することで学習活動の意味や意義について共通理解ができた。		
○外部講師を招聘して消費者教育を実践できた。		
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業就労を目指すために必要な力を分析し、実態に即した指導体制を整える。</li> <li>・地域と一体となった教育実践ができる環境を整える。</li> </ul>	

## 【生徒指導部 自己評価】

(生徒指導部) 目標	一人一人の健全な成長を促し、現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成するとともに、自他の生命を尊重し、思いやりの心や倫理観や道德観、規範意識を体得できるよう指導する。	
評価する領域・分野	生徒指導・教育相談・人権教育・特別活動(生徒会・委員会・MSL活動)・部活動	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめに関する項目では、「あてはまる」「ややあてはまる」が生徒77.1%(昨年74.5)、保護者86.4%(昨年81.7)と、昨年よりも上回っている。事案も減少しており、仲間を大切にできる生徒が増えたと考えられる。</li> <li>保護者項目29の「身を守る教育」については、「わからない」の回答が多い。情報を発信し、保護者と共有しながら指導できるようにする。</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年や関係分掌と連携した生徒指導・教育相談体制を構築し、継続的な生徒指導・生活指導、問題行動に対する指導を充実させる。</li> <li>各種講話、学習を実施し、トラブルやリスクを回避できる力を身につける。</li> <li>生徒会活動や部活動を通して、主体性、自己を生かす能力を育む。</li> <li>アンケートや相談を実施し、心の問題等に対し早期発見・対応に繋げる。</li> </ul>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年主任を中心とした学年による継続した生徒指導の実施。</li> <li>教務部と連携し、生徒指導に係る取組について年間を通して計画、調整。</li> <li>不登校や問題行動等に対する支援部、養護教諭との連携。管理職との相談。</li> <li>生徒会活動を月に1回の活動日に加え、放課後を活用できるように設定。</li> </ul>	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部と学年が常に連携し、学年での日常的な生活指導の実施。</li> <li>時節や生徒の傾向に応じて、集会や外部講師による講話、学習の設定。</li> <li>年間を通したアンケートや相談の実施。養護教諭と連携したSCやスペシャリストサポート事業の活用。</li> </ul>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動等に対する生徒指導体制、組織的な対応。</li> <li>学習活動等における生徒の姿(規範意識、主体的な行動等)</li> <li>生徒指導事案、情報モラル違反事案、事故等が軽減あるいは減少。</li> </ul>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動事案等に対する関係者との日常的な連携、各種委員会の実施。</li> <li>清流祭、生徒会活動、部活動、MSリーダーズ活動の実施。</li> <li>交通安全、情報モラル、薬物乱用防止、人権学習等、自他を大切にするための教育の実施。</li> <li>生徒のニーズに合わせたSCやスペシャリストサポート事業の活用と教育相談活動。</li> </ul>	
評価の視点	評価	
①問題行動等において、生徒指導部が他と連携し、組織的に対応できたか。	A (B) C D	
②生徒が規範意識をもち、主体的に活動する姿が見られたか。	(A) B C D	
③積極的な生徒指導を行い、問題行動や事故等が軽減あるいは減少したか。	(A) B C D	
成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題行動が減少した。発生時には、学年や関係者と連携し迅速な対応ができた。</li> <li>○生徒会執行部が全校アンケートを行い、その結果を基に学校への提案することができた。生徒自身による「より良い学校づくり」の土台ができた。</li> <li>○各種講話や学習について、前年度の反省を生かし実施方法を工夫しながら行ったことで、一人一人が自分のこととしてより具体的に考えることができた。</li> <li>▲不登校の生徒について、その対応や体制が不十分な面があった。</li> </ul>	A (B) C D	
来年度に向けての改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動等が発生した際に、組織的に対応ができるよう、他分掌と連携し、迅速に会議や検討の場を設定する。</li> <li>SCやスペシャリストサポート事業について、その活用について生徒・職員ともに具体的に周知し、指導支援に役立てる。</li> </ul>	

## 【進路指導部 自己評価】

(進路指導部) 教育目標	生徒一人一人が、自己肯定感と自信をもち、卒業後、地域社会の一員として、企業就労することで主体的に地域社会に貢献できるようにする。	
評価する領域・分野	進路指導	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の就労意識は高まりつつあるが、「働く人」になるために自ら具体的な目標を立て実践し、企業の求める主体性や労働意欲の向上が必要である。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する情報提供等の項目で「あてはまる」の回答が、生徒保護者ともに8割を超えており、昨年度より割合が多くなった。引き続き生徒の実態や保護者のニーズに応じた具体的な情報提供を行う。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業に関する知識・技能を身に付け、勤労観・職業観を構成し、社会性を高める人間力のある生徒を育成する。</li> <li>企業就労に向けて自ら具体的な目標を立て、着実に取り組む生徒を育成する。</li> <li>企業向け学校見学等の開催及びメールマガジンの配信を行い、障がい者雇用に対する理解の促進及び連携を図る。</li> <li>進路情報の発信及び各種進路研修会の参加を促進し、保護者の進路意識の高揚を図る。</li> <li>卒業生の進路先を訪問し、支援を継続することにより定着を促す。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じたキャリア教育を進め、保護者と共に職業自立できる力を育成する。</li> <li>卒業後を見通した校内組織の整備を進め、新規企業開拓を進める。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態に合った事業所での企業内実習や現場実習を実施。</li> <li>事業所や関係機関を対象とした学校見学を実施。企業向けメールマガジンを配信。</li> <li>障がい者雇用の理解を深め、積極的な職場開拓を実施。</li> <li>より雇用ニーズに応じた専門コース等授業の在り方や、人間力向上についての指導助言。</li> <li>保護者向け進路説明会や進路だより等による情報提供。進路懇談の開催。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業内実習、現場実習における評価。(事業所側の評価、自己評価)</li> <li>保護者等を対象としたアンケートにおける回答。 ・生徒の就労意識の程度。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門コース関連業種の企業における企業内実習の実施。巡回指導と情報交換。 第Ⅰ期(中止) 第Ⅱ期(全37事業所) 第Ⅲ期(中止)</li> <li>現場実習の実施 2年生 第1回(全42事業所) 第2回(全42事業所) 3年生 第1回(全44事業所) 第2回(全44事業所)</li> <li>3年生進路状況 企業就労40名 福祉就労(A型、B型、生活訓練)6名 進学2名</li> <li>事業所や関係機関を対象とした学校見学(51事業所 70名)</li> <li>企業向けメールマガジンの配信(16号 47名 内今年度新規13名)</li> <li>職場開拓(36事業所) ・関係機関との連携 ・卒業生の定着支援</li> <li>保護者向け進路説明会(各学年ごと2回)、関係機関職員による講話、「先輩と語る会」、情報提供等(進路だよりの定期発行、進路指導室の整備)</li> </ul>
評価の視点	評価
①生徒の勤労観や職業観を高めることにつなげることができたか。	A (B) C D
②当校の教育や障がい者に対する理解を深め、実習協力事業所を拡大できたか。	A (B) C D
③保護者や地域に対して、進路に関する情報提供が適切にできたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年生は現場実習の時期が大幅に遅れ、内定が出る時期は例年より遅くなった。しかし、第1回目の実習先に8割以上の生徒が内定を取ることができた。</li> <li>○3回実施予定の1年生企業内実習は第2期のみの実施であったが、実務を体験し、8時間労働の体力や集中力の必要性が体得できた。また中止の実習の代替として「校内作業実習」、「キャリアアップ交流会」を実施した。</li> <li>○生徒、保護者に向け、進路説明会開催や進路だより発行等を計画的に実施できた。また企業向けメールマガジンの配信を行い、外部への情報発信を行うことができた。</li> <li>▲関係機関や進路先との連携を図りながら、計画的に定着支援を行う必要がある。</li> </ul>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労に向けての取組では、専門コースを軸に教育活動全般において、生徒の実態に応じて具体的な目標や指導内容を設定し、一人一人に寄り添った進路支援をしていく。</li> <li>・生徒の居住地や専門コースと整合性の取れた新規企業、産業の開拓を行う。</li> <li>・関係機関や進路先とさらなる連携を図り、卒業生の定着支援を行う。</li> </ul>

## 【保健安全部 自己評価】

(保健安全部)教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らが運動に親しみ、健康や安全に留意しながら学校生活を送るための知識や意欲、態度を育成する。</li> <li>・校内安全管理、災害対策を行い、事故のない安心・安全な教育環境の充実を図る。</li> </ul>
評価する領域・分野	安全、緊急時の対応、医療機関との連携、健康管理
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の「学校は新型コロナウイルス感染症対策がしっかり行われている。」では96%が「あてはまる」の評価を得た。保護者・評議員の「学校は、新型コロナウイルス感染症対策を講じるとともに、医療機関と常に連携を図って、生徒の健康管理に気を配っている。」で85%以上の「あてはまる」の評価であり、学校の新型コロナウイルス感染症対策について</li> </ul>

	は高い評価を得ている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校生徒の課題に即した保健教育を充実させるとともに、感染症の予防と発生時の対応を充実させ、学校環境の衛生管理に努める。</li> <li>・スポーツ大会等の学校行事や保健体育の授業を充実させる。</li> <li>・様々な想定での各種訓練を実施し、命を大切にできる生徒を育てる。</li> <li>・施設管理、校内美化を推進し、公共物を大切にできる態度を育てる。</li> <li>・災害時に適切な対応ができるよう地域と一体となって防災力を高める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健、体育、防災、環境の4項目を重点目標に関連付けた業務分担を行う。</li> <li>・担任や生徒会(委員会)と連携して、保健や安全、環境衛生の維持、改善に努める。</li> <li>・地域、学校、専門家が連携した、危機管理体制を確立する。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な想定での訓練を実施し、適切な判断や行動ができるようにする。</li> <li>・年間計画を作成し、各分野の専門家の協力を得て、食育、性教育、防災教育を推進する。</li> <li>・外部講師を活用した各種研修を設定する。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、職員の健康や安全に対する調査を行い、継続的な取り組みの状況を確認する。</li> <li>・各取組に対する改善アンケート(職員)の分析結果と改善点の提示</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<p>【保健】新型コロナウイルス感染症対応、性教育研修(職員)、性の相談週間、性のLHR、緊急時対応訓練、保健日より発行</p> <p>【体育】新体力テスト、スポーツ交流会、食育セミナー</p> <p>【防災】命を守る訓練(3種類)、非常変災時対応訓練、高校生防災アクション</p> <p>【環境】安全点検、備品管理と整備、清掃(日常・定期)</p>
評価の視点	評価
①訓練や研修等の体験的な活動を通して、生徒が健康で安全に生活することができたか。	A (B) C D
②職員の安全に対する危機管理意識、専門性を高めることができたか	A B (C) D
③安心安全な学校となるための危機管理体制を整備することができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症の対策が一定レベルで実施され、感染症予防に努めることができた。</li> <li>○性教育、食育は年間計画を立て、専門家と連携し、一連した取り組みができた。</li> <li>○命を守る訓練では地震以外の訓練を実施し、場面に応じた防災意識を高めることができた。</li> <li>○性教育では専門家の意見を聞く機会を設けた。3年間で定期的に学ぶ取組が定着してきた。</li> <li>▲コロナ禍が明けたら行政と地域、学校と連携し、避難所開設訓練を実施する。</li> </ul>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防対策の徹底と更新を行い、生徒と職員が感染しないように取組を継続する。</li> <li>・性教育、食育、防災は3年間で必要な知識を学び、経験が積めるように計画的に取り組む。</li> <li>・行政、地域、学校が連携した防災体制の確立と訓練を実施する。</li> </ul>

## 【支援部 自己評価】

(支援部)教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業就労を見据え、個に応じた指導・支援、合理的配慮の提供ができるよう、研修や相談活動の充実を図る。</li> <li>・総合産業科における専門性の高い職業教育を推進するための研修・研究活動を行い、指導内容の充実を図り、進路指導力と教育実践力を高める。</li> </ul>
評価する領域・分野	家庭との連携、その他
現状及びアンケートの結果分析等	家庭との連携⑥、⑩は「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせて80%以上の回答があった。懇談で教育方針や指導の内容について個別の教育支援計画を活用して共通理解を図ることができた。その他⑪は「わからない」と回答した割合が15%以上であった。個別の教育支援計画の内容がわかりやすく記載されているか検討が必要である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画の作成支援や相談支援を行い、必要に応じてケース会議を開き、生徒の社会自立に向けた支援の充実や共通理解を図る。</li> <li>・職員研修を実施し、専門コースの指導・支援の充実と知的障がいのコア・スクールとしての専門性を高める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の個別の教育支援計画担当者、学年主任と連携</li> <li>・コア・ティーチャーや専門コース主任と連携</li> </ul>

	・職業教育推進委員会、専門コース主任会の運営
目標の達成に必要な 具体的取組	・個別の教育支援計画の作成支援と管理を学年単位で行う。 ・相談支援を行い、必要に応じてケース会議を開く。 ・職業教育課題に即した研修や会議を適切な時期に実施する。
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	・事後アンケートの分析結果 ・実践集等からわかる教育実践
取組状況・実践内容等	・校内研修 ・校外研修（岐阜県特別支援学校研究会等） ・コア・スクール事業 ・実践集 ・校内支援会議 ・ケース会議 ・個別の教育支援計画 ・地域支援センター ・センター的機能充実事業
評価の視点	評価
①個別の教育支援計画の作成支援や相談支援を行い、三者懇談を通して共通理解を 図ることができたか。	A (B) C D
②各専門コース会を効果的に運営し、指導内容の充実を図り、職員研修を通して進 路指導力と教育実践力を高めることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○職業教育推進委員会を筆頭に、専門コース主任会がリーダーシップをとり、各専 門コース会を効果的に運営し、指導実践に生かすことができた。その結果、今年 度の実践集には専門コースの充実した取組内容を記載することができた。 ▲個別の教育支援計画の内容がわかりやすく記載されているか検討が必要である。	A (B) C D
来年度に向けての 改善方策案	・個別の教育支援計画は生徒、保護者が理解しやすい表現と内容で記載し、 合理的配慮や支援の手立てがわかるように作成する。

## 【渉外部 自己評価】

(渉外部) 教育目標	・コミュニティ・スクール制度に伴い、生徒が地域の中で所属感や一体感を味わい、地域社 会の一員として生きていく自覚や自信を持つことができるよう、交流及び共同学習、地域 社会と生徒が一体となった活動を強化し、推進する。 ・生徒の健全な発達及び福祉の増進を図るため、保護者が主体的にPTA活動に取り組むこ とができるよう支援する。
評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」
現状及びアンケート の結果分析等	・「5いろいろな人との交流を大切にし、生徒の経験を広めている」に当てはまる、やや当 てはまるに80%、「28 地域との交流事業や地域の施設・人材を積極的に活用し、地域 との連携強化を進めている」は80%あり、保護者の地域交流への関心の高さが伺える。 また、「30 保護者と一体になって、PTA活動を進めている」は86%あり、PTA活 動に積極的な保護者や協力的な保護者が多く、良い活動となっていることが伺える。
今年度の具体的かつ 明確な重点目標	・生徒の社会性や豊かな人間性の育成を目指し、交流及び共同学習を推進する。 ・役員や委員長と連携を図り、保護者の主体的なPTA活動を支援する。
重点目標を達成する ための校内組織体制	・交流校や地域の自治会連合会との連絡調整をもとに、関係部署との連絡調整を行った。 ・PTA会長と相談しながら方向性を決め、役員へ意見を図りつつ活動を推進する。 ・PTAの専門委員会ごとに担当者を決め、委員長と連携を図りつつ活動を推進する。
目標の達成に必要な 具体的取組	・学校間交流として、学校交流の計画・実施 ・地域交流として、地域の祭りや文化祭、清掃活動などの参加計画・実施 ・PTA役員や各専門委員長を中心としたPTA活動の計画立案・実施。
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	・学校間交流、地域交流を通し、生徒の社会性や豊かな人間性を育むことができたか。 ・主体的なPTA活動を推進することができたか。
取組状況・実践内容等	・PTA総会、役員会4回、執行部会2回(役員推薦委員会)、各専門委員会活動1～2回実 施。 ・岐阜城北高等学校家庭クラブと本校福祉コースとの交流を実施。 ・地域での清掃ボランティア交流を1回実施。
評価の視点	評価

<p>①コミュニティスクール制度の視点に立ち、地域の自治会連合会長と相談・連絡を行い、行事を計画立案することができたか。</p> <p>②生徒の社会性や豊かな人間性の育成のための学校行事や学校間交流、地域交流に関する計画立案・実施ができたか。</p> <p>③主体的なPTA活動を推進するために保護者と連携を図ることができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>○コロナ禍であっても交流活動の実施を目指して、地域の方や交流校と相談・連絡を取り合い、可能な方法を検討し、安全に配慮して交流することができた。</p> <p>○地域の自主的な清掃活動を通して、地域のために活動している姿を認められたり、期待されたりしていることを実感させることができた。</p> <p>○各担当者がPTA役員や各専門委員長と連携を図り、計画的に各委員会活動を推進することができた。急な予定変更や確認は、「学校すぐメール」で早く連絡することができた。</p> <p>▲コロナ禍でPTA委員会活動の回数が減り、情報交流の機会も減ってしまった。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流は、地域交流委員会と連携し、生徒が主体的に参加していけるよう支援する。</li> <li>・コロナ禍でもPTA活動の実施を目指して、PTA役員や各専門委員長と連携を図り、できる方法を検討し、活動を支援する。</li> </ul>